

第14回 交流会



ヒューマンライブラリー

「複言語・複文化家族」

ヒューマンライブラリーをご存知ですか？

その名のとおり、「人の図書館」です。人が「本」になり、その人の生き方や人生を語ります。「読者」は「本」を借りることができ、「本」の語りを聴きます。お約束は「本」を傷つけないこと。「語り」に耳を傾け、尊重すること。

第14回交流会では、「複言語・複文化家族」というテーマのもと、ヒューマンライブラリーを行います。6人の「本」の方の語りからそれぞれの家族の人生を知り、家族について考えます。当日は、2冊の「本」をそれぞれ30分間借りて読むことができます。

日時

1月23日(土)

13:00~16:00

会場

Zoom開催

Zoomのログイン方法は申し込み受付完了後に送付いたします。

【スケジュール】

13:00~13:10	受付
13:10~13:20	趣旨説明
13:30~14:00	セッション1
14:10~14:40	セッション2
14:50~15:20	セッション3
15:20~16:00	振り返り

参加資格

参加費無料、会員・非会員問わず、どなたでもご参加いただけます。

ただし、以下について予めご了承ください。

1. 当日、すべての時間(13:00~16:00)に参加できる方

申し込み後のキャンセルはできません。

2. 顔出し(動画オン)、ミュート解除で参加できる方

ウェビナーではありません。セッションでは、本役の方と対話をしていただきます。

申し込み方法

申し込みはこちら<https://forms.gle/8rqB45hjjLGrs8qEA>

【定員】24名

【締め切り】2021年1月10日(日)23:59

先着順です。締め切り前でも、定員に達し次第締め切らせていただきます。



お問い合わせ

言語文化教育研究学会 交流委員会

MAIL

interact@alce.jp



言語文化教育研究学会
Association for Language and Cultural Education

本イベントは言語系学会連合との共催です

1) 「ハーフ」の子どもを育てる言語教師 「意志あるところに道は拓ける！」

稲垣みどりさん

私は英語が嫌いでした。大学卒業後、国語教師になりました。ひよんなことから学生たちのイギリス語学研修の引率をすることに1ヶ月間の滞在中は国際交流を体験し、思いがけず充実した日々。再び欧州へ行くことを決意し、ほどなく学校を辞めました。国語教育に加え日本語教育を勉強し、アイルランドへ。現地では教師の経験を積むとともに一緒に家庭を築くパートナーも探しました。英語嫌いだった私が、英語が話せるようになると価値観を共有できる相手と出会えました。私の日本語クラスの生徒だったアイルランド人の夫と結婚し、今は二人の子どもたちと日本で生活しています。複言語・複文化家庭で生きるからこそ対話による共通理解の成立と価値観の共有が必要です。その前提として、自分自身を知ることが重要。私は、私の「意志」を何より大切にしています。



2) 日本語とタイ語の狭間で生きるわたし 「家族同士の「ありがとう」は日本語で」

ジャスミンさん



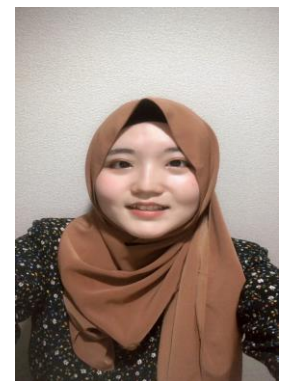
私は短大で第二外国語としてタイ語を学びました。卒業後、タイのNGOでボランティア活動をしました。私は何もできませんでした。むしろタイの人々に助けをもらい、タイの人々の温かい心を感じながら帰国しました。それから大学へ編入学し卒業しますが、卒業式が過ぎても就職が決まりませんでした。そんな時、短大時代の恩師からタイで日本語教師をしないかと声をかけられました。

タイの大学で3年日本語を教えた後、大学院に進学し修士号を取得しました。その後、縁あって、再度、同じ大学で日本語を教えることになりました。現在もタイで日本語教師をし、タイ人の夫と娘、息子とともに生活しています。タイの社会で家族と生活する中で私自身が感じている事、それは……。

3) 日本人ムスリム 「イスラームとともに生きる私のストーリー」

富岡花さん

私は父の仕事の関係で子ども時代をサウジアラビアで過ごしました。両親とも日本人ムスリムです。3歳の頃から礼拝を真似るようになり、小2の時には自分から望んでスカーフを巻くようになりました。礼拝を通してアラビア語に馴染み、インターナショナルスクールに通っていたので、家の中は複言語環境でした。帰国子女が多かった高校生活は充実していましたが、学外では周りから冷たい目で見られることもあり。また、ムスリムコミュニティでは「周りとは違う、居場所がない」と感じ、「ムスリム」と「日本人」は両立しないのか？ と、イスラームから距離を置くようになりました。しかし、大学入学後、新しい出会いやイスラーム本来の教えに触れることで、ムスリムとしての自分と向き合えるようになりました。私だから話せる、私の想いを伝えたいと思います。



4) 韓国人と結婚した日本人女性

「日韓夫婦、日韓関係の未来は・・・？」

本間祥子さん



私は、日本在住「日韓夫婦（한일부부）」の妻です。結婚を決めたのは、2019年。日韓関係が「最悪」と言われているときでした。それでも結婚を決めたのは、個人と個人の関係が大切だと考えたからです。ただ、日韓関係に関するニュースを見るたびに、私は不安を感じたり、傷ついたりすることがあります。また、SNSで見る韓国ブームと政治問題とのギャップに混乱することもあります。今の私には、日本も韓国も自分の一部なのかもしれません。これまで彼とひざを突き合わせて、日韓関係について深く話す機会はほとんどありませんでした。はたして国と個人は切り離せるのでしょうか。そんな話をみなさんとできればと思います。

5) 日本語、ポルトガル語、スペイン語の中にいる私

「国籍は関係ない」

マリアンさん

私はブラジル人の母、ペルー人の父のもとに生まれ、日本で育ちました。第一言語は日本語ですが、家族との会話にはポルトガル語やスペイン語も使います。クリスマスは親戚たちと一緒に、母国式の料理で祝います。妹の学校から来る手紙を両親の母語に通訳するなど大変なことも多く、今は同じような家庭の子供を助けるため児童養護施設で働くことを目指しています。

アルバイトを掛け持ちしながら高校に通っていますが、職場や学校でのふとした瞬間に、外国人が「他者」として括られていると感じます。世の中には多様な人がいて当然なのに、なぜ受け止められないのでしょうか。皆さん自身が無意識のうちに差別をしていないか、見直してみませんか。



6) 移動する子どもを育てる移動する子どもだった私

「子どもの教育どうする？」

王晶さん



みなさんは、出身や故郷を聞かれた時、考えずに即答することができますか。私はそれが困難です。生まれてから今まで移動を繰り返してきたからです。子どもの頃は移動によって、その地域の言葉や文化に慣れるのに精一杯でした。また、家庭内の言葉も移動するたびに変わり、家庭内の教育文化も変化しているように感じました。そんな私は現在、留学生として、また親として日本で異なる方言、異なる文化の夫と共に勉強し、生活しています。最近はコロナの影響により、母国で子育てをしています。移動する子どもだった私たちが、現在、移動しながら子育てをしているのです。育児は対話、協力を通して模索しながら前に進んでいます。その中で私がいつも重視しているのは、移動する子どもの頃の私の声でした。

今回は移動する子どもを抱える家庭が遭遇する子どもの言語、教育の問題についてお話できればと思います。

スペシャル企画「在住外国人の子育て」

中華料理店「佳里福(ジャリフ)」店長
李娟云(木村香梨奈)さん

